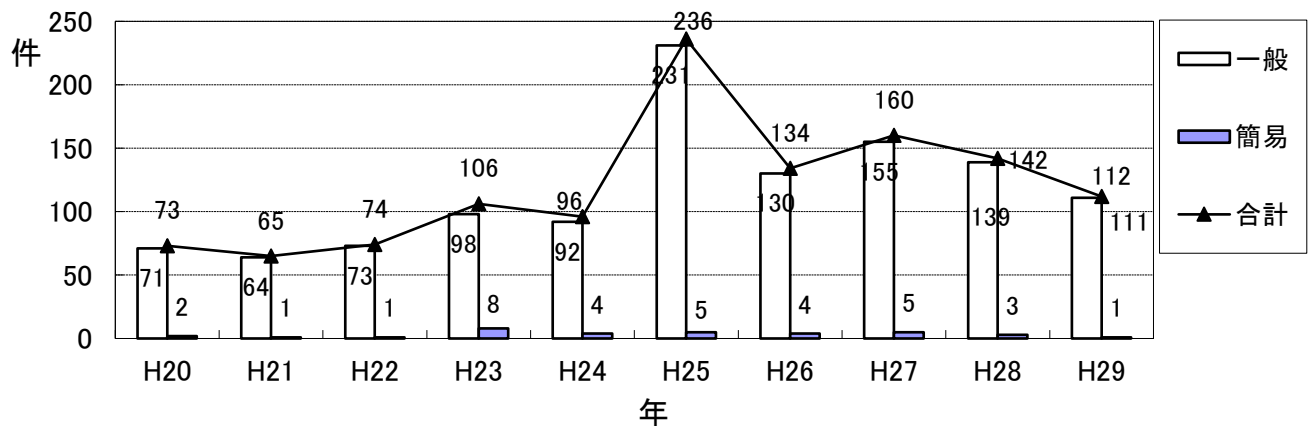


近畿支部管内におけるガス事業関係の事故発生状況（平成29年実績）

平成30年5月

中部近畿産業保安監督部近畿支部 保安課

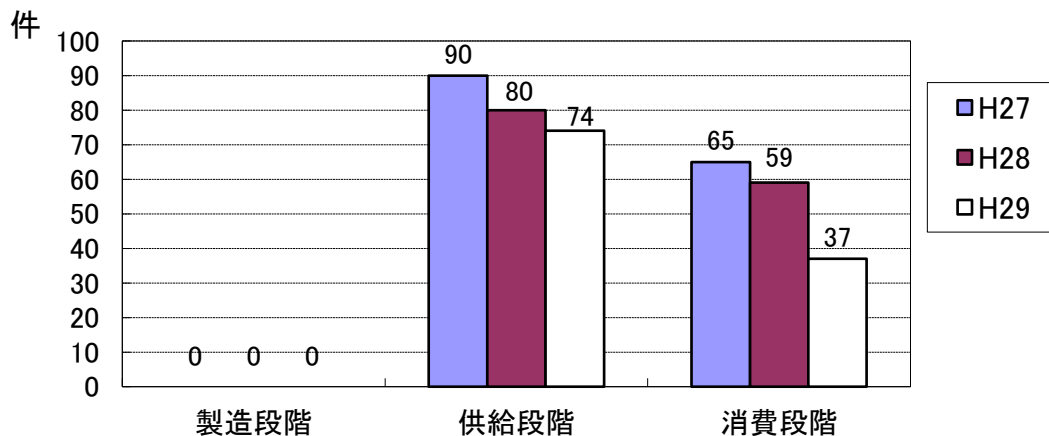
一般ガス導管事業等、旧簡易ガス事業の事故発生件数の推移



- ・平成29年は、112件のガス事故が発生した。前年と比較して一般ガス導管事業等で28件（20%減）、旧簡易ガス事業では2件の減少となった。

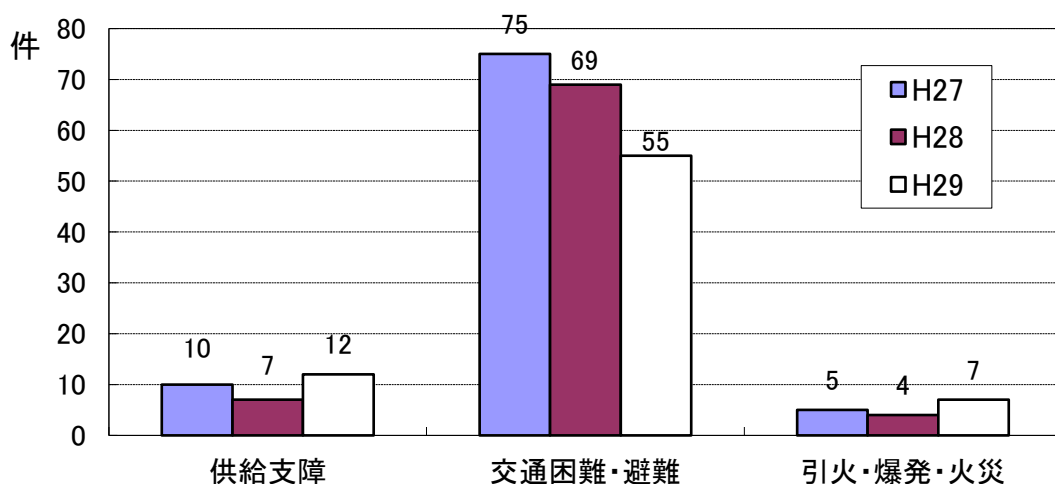
【一般ガス導管事業等】

1. 一般ガス導管事業等の段階別発生状況



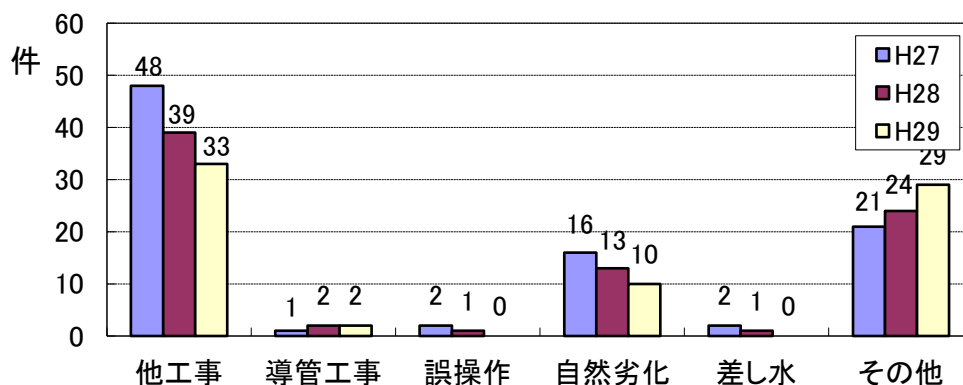
- ・平成29年の段階別発生状況は、「供給段階」で74件の事故が発生しており、前年と比較して14件（18%減）の減少となった。また、「消費段階」での事故は37件発生しており、前年より22件（37%減）の減少となった。

2. 一般ガス導管事業等の供給段階における事故種別発生状況



- ・平成29年の供給段階の事故種別発生状況は、「交通困難・避難」で55件の事故が発生しており、前年と比較して14件（20%減）の減少となった。（ガス漏えいに伴う2次災害防止のため、消防・警察による交通規制や避難指示）
- ・「供給支障」の13件のうち、2件は事業者の責任（ガス管工事における作業手順の誤り等）で発生している。

3. 一般ガス導管事業等の供給段階における事故原因別発生状況



- ・平成29年の供給段階での事故原因別発生状況は、「他工事」で33件の事故が発生しており、前年と比較して6件（15%減）の減少となった。また過去3年間における供給段階の事故原因では、他工事によるものが120件と全体の50%を占めている。

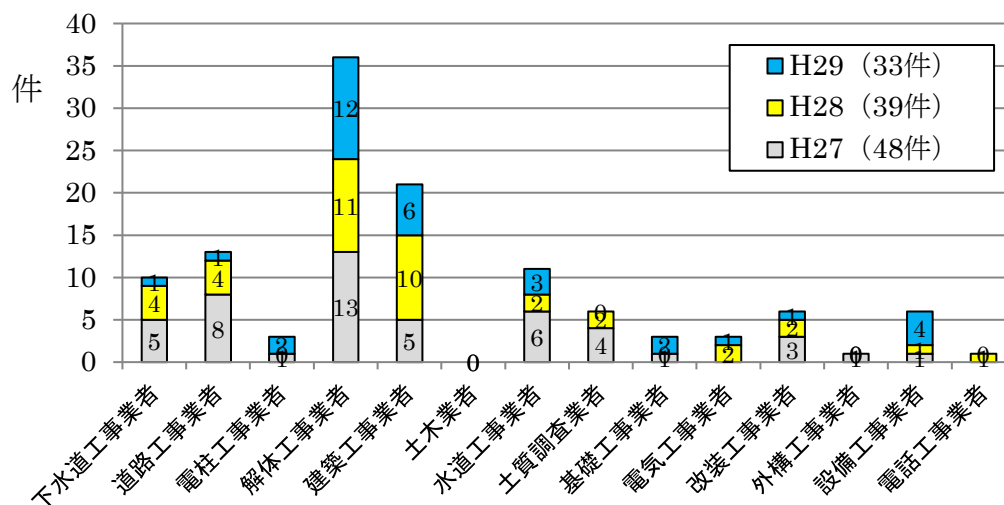
※平成29年より「差し水」はガス事故年報の事故原因にそって、他事故原因の項目で計上。

4. 一般ガス導管事業等の現象別での他工事事故件数の推移（単位：件）

	H25	H26	H27	H28	H29
他工事事故件数	23	27	48	39	33
（照会有）	（3）	（6）	（18）	（9）	（10）
（照会無）	（20）	（21）	（30）	（30）	（23）
供給支障	1	3	5	3	1
中毒・酸欠	0	0	0	0	0
火災・負傷	2	2	3	3	4
交通困難・避難	20	22	40	33	28

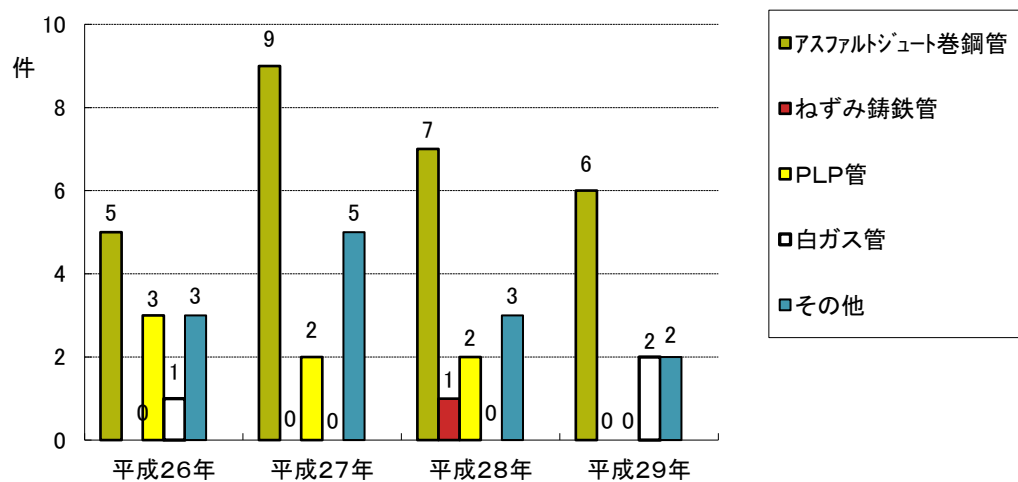
- ・平成29年は、他工事事故が33件発生し、そのうち23件（70%）は事前照会が無かったものである。
- ・事前照会があったにもかかわらず事故に至ったものは10件あり、内容は連絡なしに事前着工したものや、他工事業者内での連絡不備等となっている。

5. 一般ガス導管事業等の他工事事故における工事業者別内訳



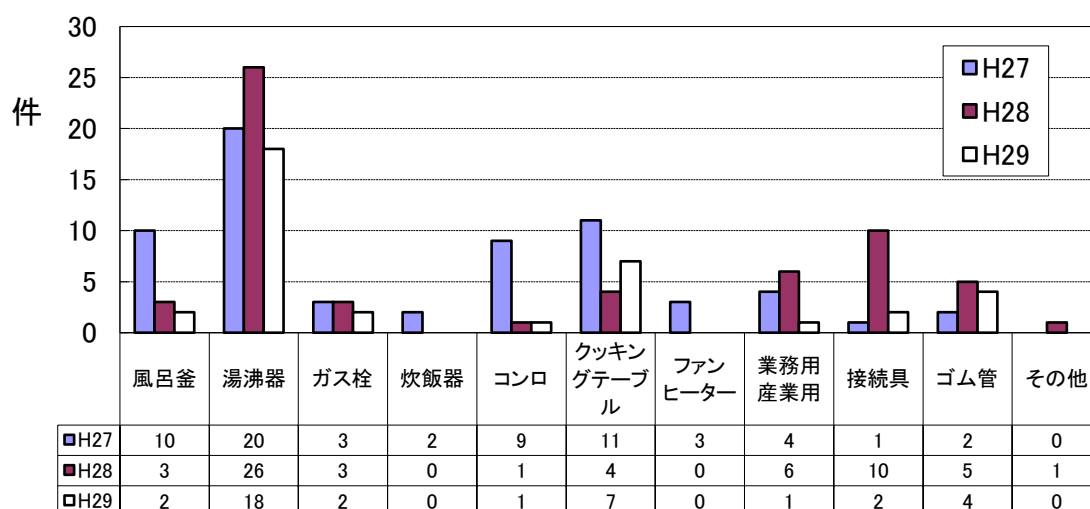
- ・平成29年の他工事事故は、解体工業者及び建築工業者で多く発生している。
- ・過去3年間の他工事事故においても、解体工業者、建築工業者で多く発生している。

6. 一般ガス導管事業等の供給段階事故原因の自然劣化に係る管種別発生状況



- ・ 自然劣化による事故発生において、管種ではアスファルトジュート巻き鋼管が最も多い。

7. 一般ガス導管事業等の消費段階における消費機器別発生状況



- ・平成29年に事故発生の多かった消費機器としては、湯沸器及びクッキングテーブルであった。
- ・業務用・産業用では工業炉で1件事故が発生した。
- ・人損事故は2件発生し、2名の方が負傷（軽火傷）を負った。

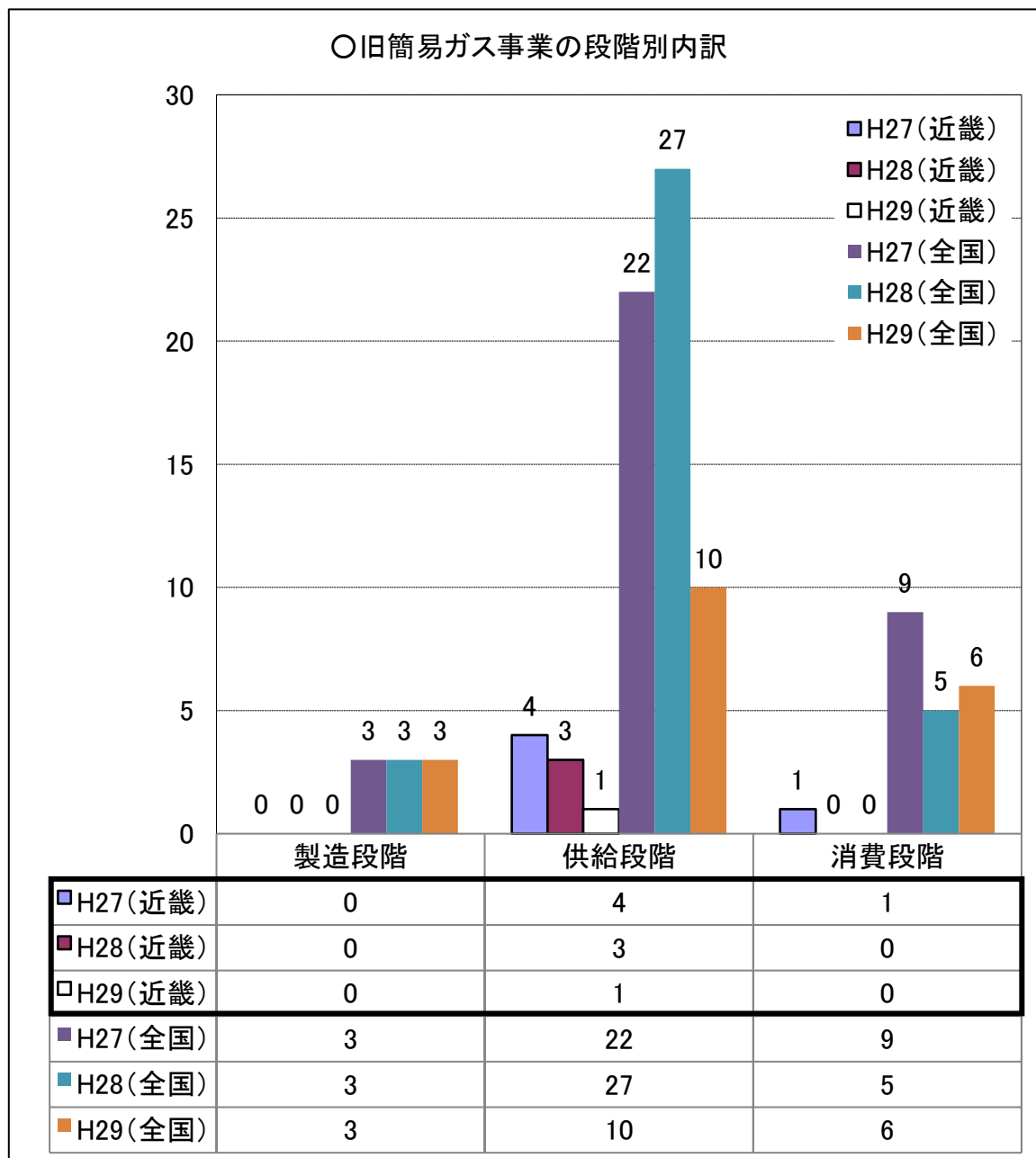
8. 一般ガス導管事業等の消費段階における原因別発生状況

	H27	H28	H29	合計
消費者の理解不足や誤使用等に起因する事故	38	30	20	88
維持管理不備	22	10	12	44
経年劣化	12	8	8	28
内部腐食	4	1	0	5
汚れ等	3	0	2	5
その他	3	1	2	6
ガス栓誤開放	5	2	2	9
接続不良・接続不完全	8	14	6	28
不適切使用(点火操作ミス・使用ミス)	3	4	0	7
CO中毒	1	1	0	2
その他	26	28	17	71
作業ミス	3	1	0	4
養生シート覆い	7	7	6	20
リコール等	11	10	3	24
その他	3	5	7	15
不明(調査中を含む)	2	5	1	8

- ・平成29年の事故原因は、前年に比べ維持管理不備（経年劣化、汚れ等、その他）（12件）が増加したものの、接続不良等（6件）、不適切使用（点火操作ミス等）（0件）、作業ミス（0件）、養生シート覆い（6件）、リコール等（3件）などが減少している。
- ・維持管理不備のうち、経年劣化（8件）は6件がクッキングテーブルの器具用ソケット内部のコンセントパッキンに係るもの、1件が長期使用コンロ内部の点火機構のスピンダル部のパッキンに係るもの、1件が長期使用風呂釜の電装基板の点火回路のひび割れによる接触不良による故障に係るものであった。汚れ等（2件）はどちらも接続箇所（ガス栓と接続具及び接続具と消費機器）での異物の介在であり、その他（2件）は消費機器の熱影響を受けやすい箇所にガスコードを通す不適切なレイアウトに起因するものであった。
- ・接続不良等（6件）は、3件が小型ガス瞬間湯沸器（開放燃焼式）のガス接続工事の際の需要家自身や他業種の事業者による施工不良によるもの、3件が接続具の誤接続及び迅速継手等の差し込み不足によるものであった。
- ・CO中毒事故は、H25年以来の発生なしであった。
- ・養生シート覆いによる事故は昨年とほぼ同数の6件が発生している。いずれの事故でも塗装工事業者から需要家へ、塗装工事で給排気口を養生シートで覆う場合のガス機器の使用禁止に関する周知は行われていなかった。
- ・リコール等（3件）は、2件が特別点検を行っている湯沸器のケーシング変形事故、1件は製造事業者が自主リコールを行っている風呂釜の部品の不具合による機器内部の焼損事故であった。
- ・その他（7件）は、主に、湯沸器（給湯器）で何らかの要因により一時的な点火不良が発生し、その状況で需要家が点火操作を繰り返すことで機器内に未燃ガスが滞留、その後の再度の点火動作の際に未燃ガスが一気に燃焼し、機器ケーシングの変形に至る事故であった。

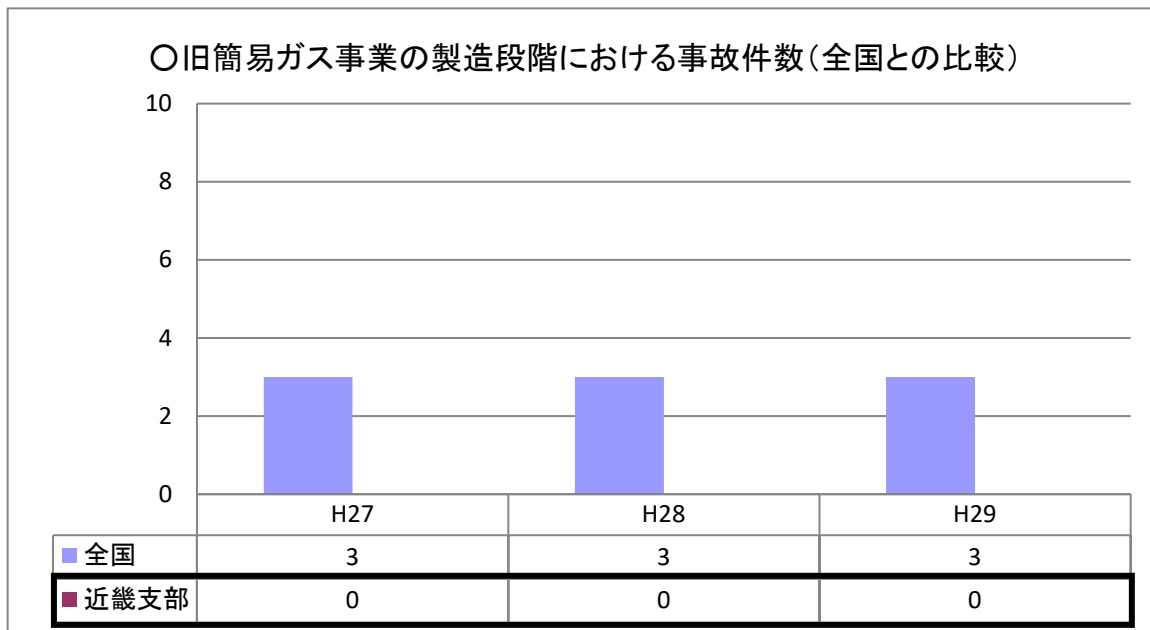
【旧簡易ガス事業】

1. 旧簡易ガス事業の段階別発生状況

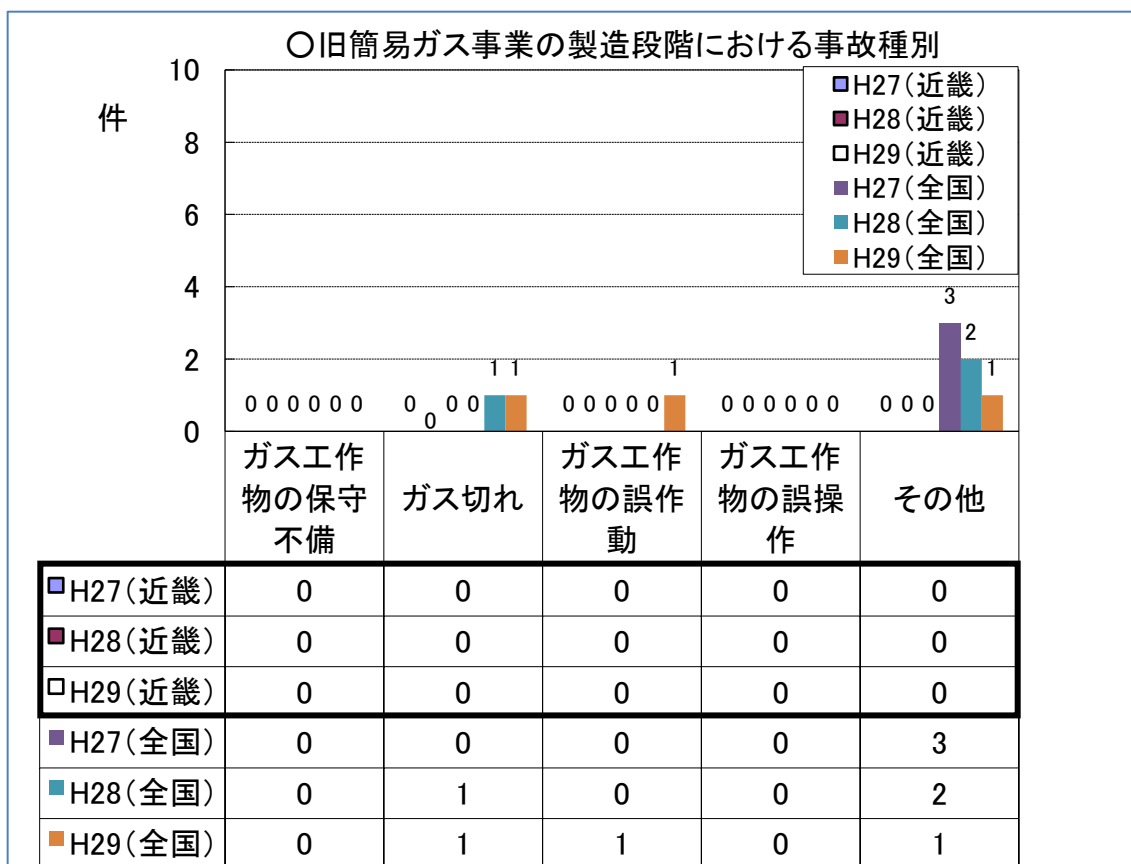


- ・ 段階別に見ると、全国では供給段階の事故発生件数は減少しているが、消費段階は増加している。
- ・ 近畿では、製造段階、消費段階の事故は前年に続き発生していないが、供給段階で1件発生し、前年より2件の減少となった。

2. 旧簡易ガス事業の製造段階の事故種類別発生状況

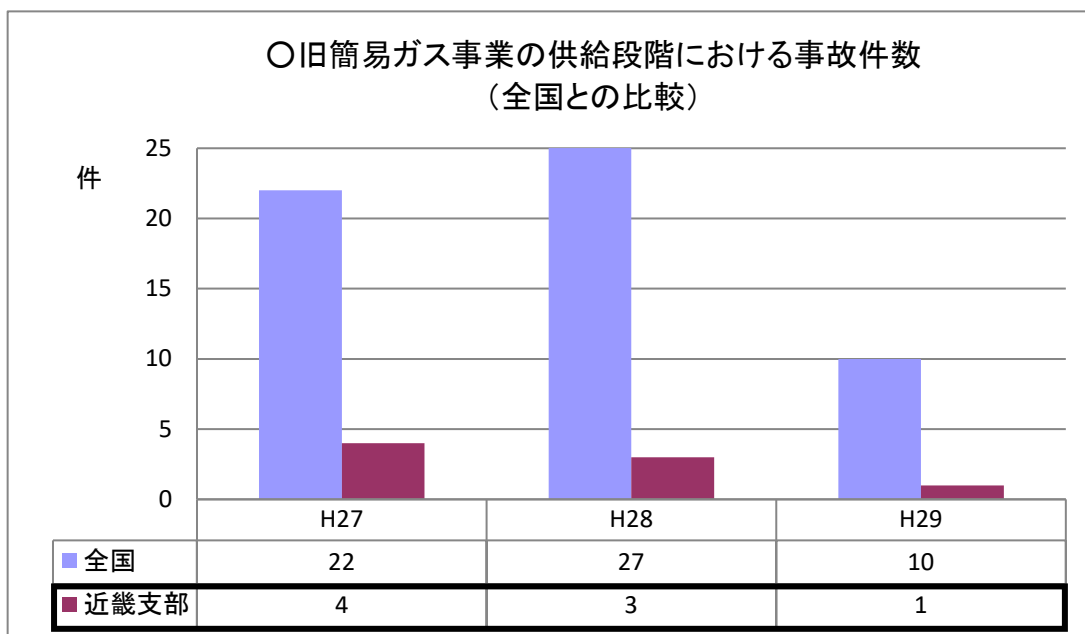


・ 製造段階における事故は、全国・近畿とも横ばいで推移している。

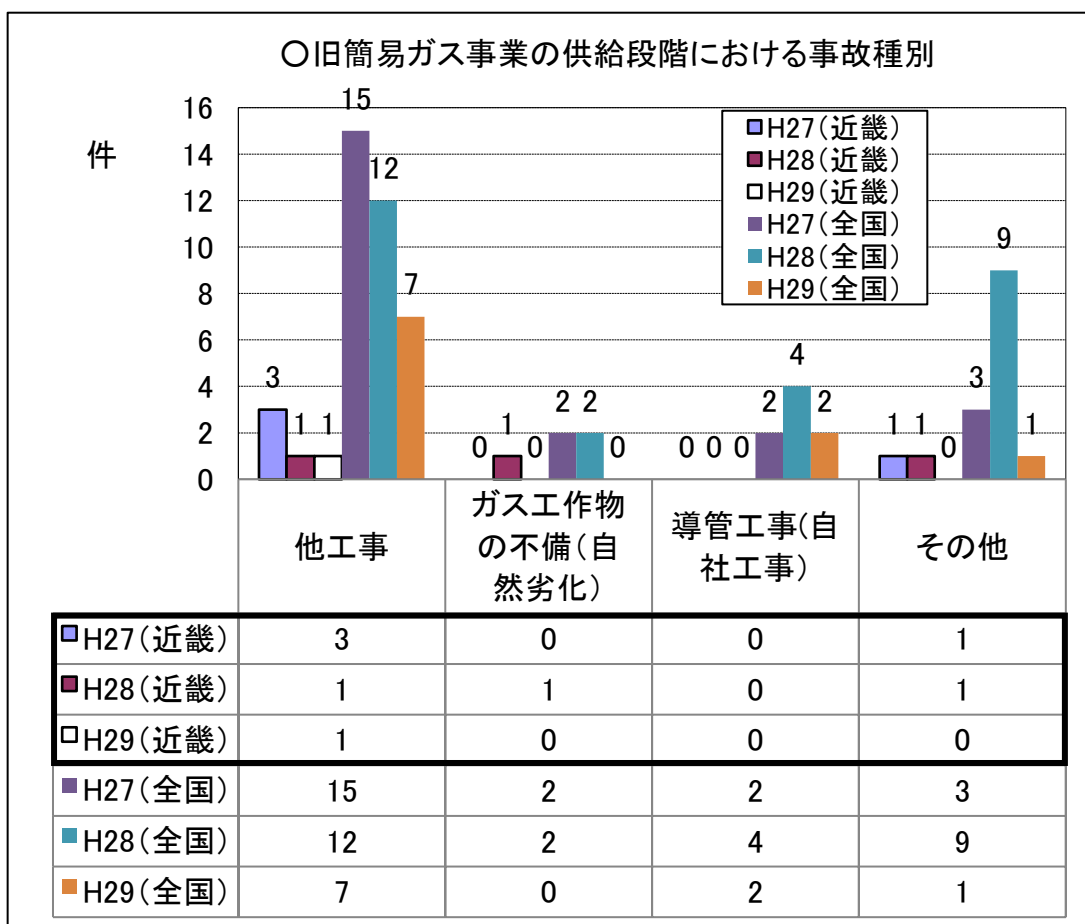


・ 製造段階における事故原因(全国)は、ガス切れによるものが多い。

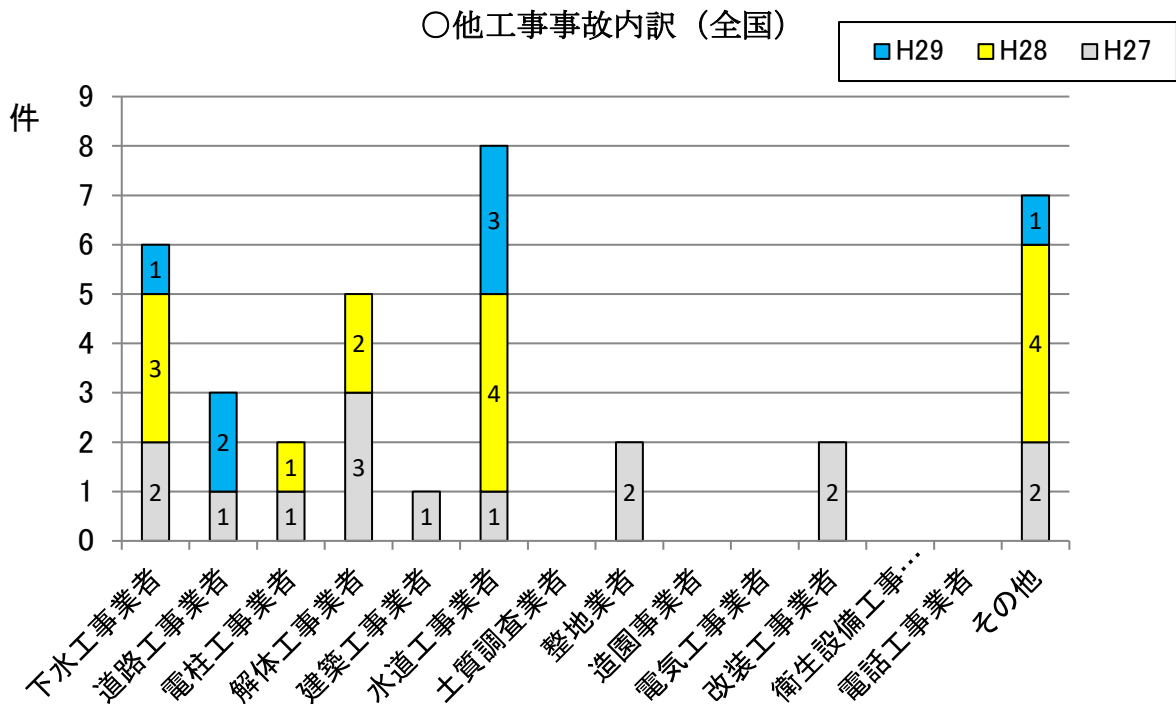
3. 旧簡易ガス事業の供給段階の事故種類別発生状況



- ・ 全国では平成28年は熊本地震の影響により増加したが、平成29年は大幅に減少している。
- ・ 近畿では最近3年間は減少傾向にある。

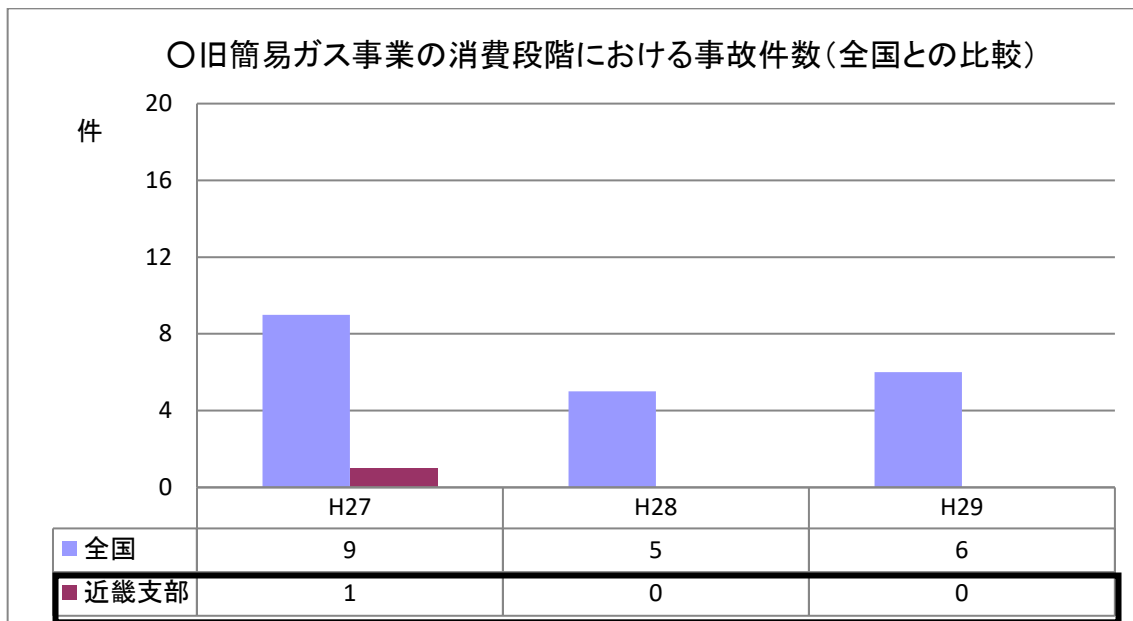


- ・供給段階（全国）では、平成28年にその他事故が増加しているが、9件中8件は熊本地震の発生に伴うガスの供給停止であり、平成29年は全ての種別において減少している。
- ・事故種別の割合としては、例年、他工事の割合が高く、平成29年度（全国）における他工事の割合は7割を占めている。

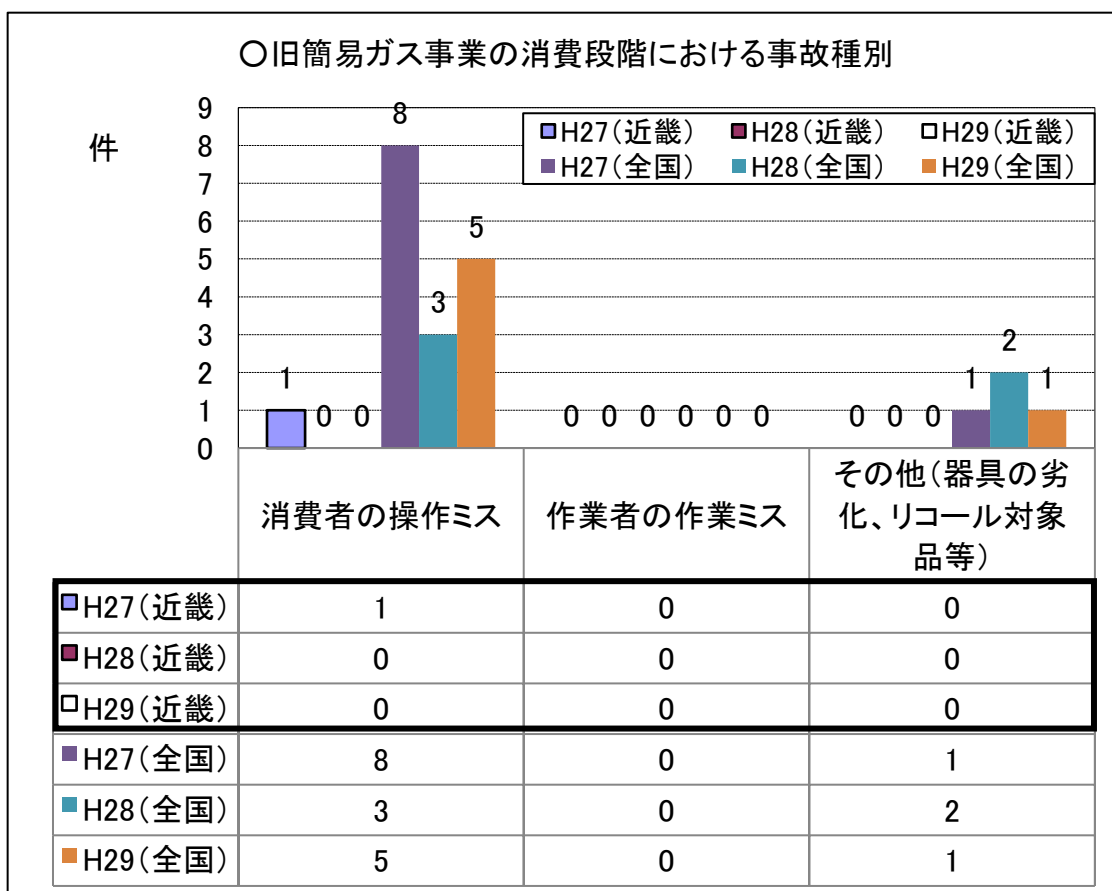


- ・過去3年間の他工事事故は、水道事業者が最も多く、その他、下水道事業者、解体事業者で多く発生している。

4. 旧簡易ガス事業の消費段階の事故種類別発生状況



- ・ 全国では、ここ数年減少傾向にあったが、平成29年は増加に転じた。
- ・ 近畿では前年に続き、事故は発生していない。



- ・ 消費段階（全国）では、消費者の操作ミスが原因である事故の割合が高い。

関連サイト（リンク）

○消費者の皆さまへのお知らせ

【ご家庭の皆様へ（ガス安全使用のお願い）】

http://www.safety-kinki.meti.go.jp/kayaku_gas/gokatei_p.htm

○飲食店の皆さまへ

【飲食店の皆様へ（ガス安全使用のお願い）】

http://www.safety-kinki.meti.go.jp/kayaku_gas/inshokuten_p.htm

○掘削を伴う工事関係者の皆さまへ

【工事関係者の皆様へ（ガス管損傷事故防止のお願い）】

http://www.safety-kinki.meti.go.jp/kayaku_gas/koujikankeisya_p.htm

○外壁塗装工事関係者の皆様へ

【外壁塗装工事関係者の皆様へ】

http://www.safety-kinki.meti.go.jp/kayaku_gas/gaihekitosou_p.htm